



Gunma Association of Occupational Therapists

一般社団法人

群馬県作業療法士会ニュース

「からっ風通信」

第135号 2019年1月発行

## 巻 頭 言

### 年の瀬雑感



一般社団法人群馬県作業療法士会  
会長 新井 健五

最近、「生産性」という言葉をよく耳にする。生産性とは、より少ない労力と投入物でより多くの価値を生み出したいという人間ならではの思いから生み出された概念である。言い換えるなら、効率的に高い成果をあげることともいえよう。商工農業界などでは、当たり前の考え方である。なにせ、自由市場経済では、生産性は企業経営や個人利益(報酬)に直結するからである。生産性は、この業界では常に意識すべきかつ切実なことなのだ。

振り返って我々の業界ではどうだろうか。正直な話、無意識・無関心であったといっても過言ではないだろう。それは、計画経済の中で仕事をしているからということも前提理由ではある。そもそも、報酬を得るための仕組みも、その人に“どのくらいの時間をかけたか(提供に時間がかかったか)”ということの評価するものであり、その人が“どれくらいよくなったか”という「成果」とそのための「効率性」を評価する仕組みとはなっていないからだ。つまり、成果を出さずとも(“よくならなくとも(せずとも)”)報酬は得られるし、むしろ効率性悪く時間がかかるほどに報酬は得られるとも言えるのだ。なぜこのような報酬評価の仕組みとなっているのかと言えば、実施者が国家資格者であること、すなわち効率性や成果に立脚した実践はそもそも成されているはずという前提に立っているからである。皆さんはわかっているだろうか。

ところで、介護業界では、「科学的介護」というフレーズで、“成果を出せば報酬を払うよ”的なインセンティブをつける流れになってきているのをご存知だろうか。厚労省では、介護分野におけるデータベース開発を進めており、既に通所リハビリや訪問リハビリにおける計画書及びプロセス管理表の情報を蓄積する「VISIT」を構築している。次の段階として、介護保険サービス全般のサービス内容と利用者の心身状態の変化・改善の関係性についての情報を集め、サービスの質や効果についてのエビデンスを蓄積することを目的とした「CHASE」が稼働しようとしている。これはつまり、介護業界にこれまで全く認識のなかった「生産性」の考え方を導入するためなのである。対象者の状態に合った成果が出る(自立につながる)サービスをいかに効率的に提供するか、すなわち科学的介護の実践と成果が報酬の前提になるということである。この流れは、「未来投資会議」における安部首相の「どのような状態に、どのような支援をすれば自立につながるのかを明らかにする」「効果のある自立支援の取り組みが報酬で評価される仕組みを作る」という発言から一層加速しよう。また、生産性の考え方は介護業界の人手不足を補うという副次的効果も生むだろう。

さて、今一度我々の業界を振り返ってみたい。生産性や成果ということを問われて耐え得るのだろうか。介護業界でのパラダイムシフトを他人事にはいけない。国家資格者というだけで守られる時代は近いうちに終わるのだろうか。そんな危機感を覚えた年の瀬である。

# 平成30年度 第3回 理事会

会 場：群馬医療福祉大学 前橋キャンパス  
元気プラザ21内6階 会議室

日 時：平成30年9月19日(水) 19:06～20:57

参加者：新井、関根、山口、唐澤、勝野、高橋、品田、都丸、高坂、柴田、市川、李、長谷川、中嶋(記録者)計14名 記録：中嶋

## I. 会長から

特になし。

## II. 各部議事

### 1 教育部活動報告

〔報告者 教育部部長 今村雄二(孫の手)〕

#### 1) ブロック長会議 7月24日

研修会運営進捗確認

事前受付の検討

受付システムの導入に関する共有

理事からの伝達事項共有

印刷代などの予算見直しに関する検討→事務局に協力を得て、共通研修など含め事前申し込みをHP上できるように後半期の研修からスタート。

#### 2) 研修会報告 8月5日

現職者共通研修9:30～16:50 ティホーム孫の手・いづかにて

①作業療法生涯教育概論 講師：柴田全利OTR

会員35名、非会員0名、学生会員0名

②職業倫理 講師：佐藤由子OTR

会員35名、非会員0名、学生会員0名

③作業療法における協業・後輩育成 講師：平石武士OTR

会員34名、非会員0名、学生会員0名

④保健・医療・福祉と地域支援 講師：青木佑太OTR

会員32名、非会員0名、学生会員0名

※②前年度講師に断られ、お願いした上での講師受諾頂いた。

収入68,000円 支出52,629円

9月5日 現職者共通研修 9:30～16:40 群馬医療福祉大学

①日本と世界の作業療法の動向 講師：新井健五会長

会員40名、非会員0名、学生会員0名

②作業療法の可能性 講師：山口智晴OTR

会員42名、非会員0名、学生会員0名

③実践の為の作業療法研究 講師：近藤健OTR

会員42名、非会員0名、学生会員0名

④事例報告と事例研究 講師：近藤健OTR

会員39名、非会員0名、学生会員0名

収入81,500円 支出65,947円

※ワークショップ形式などガイドライン外さない中で新しい取り組みも

#### 3) 今後に関して

学生会員の参加が夏休みや実習等と重なり参加現状では無し、後半期の研修が基礎研修など学生にも関心高いものが増えるので経過を見て行く。

【審議事項】無し。

### 2. 広報部活動報告

#### 1) 報告事項

##### ①公益事業グループ

・高校生一日体験を7月30日から8月10日の期間で実施。

・9月1日(土)にこころのふれあいバザー展を実施。(資料①)

・9月下旬～10月中旬に第2回公益事業部会を開催し報告予定。

・10月28日(日)に開催予定の健康フェスタ2018の事前打ち合わせ、翌年1月20日(日)に開催予定の作業療法フェスタの内容を検討予定。場所は高崎イオンで決定。

##### ②ニュース編集グループ

・現在、10月号の作成準備中で、各部へ理事を通して協力を依頼している。記事の集まりはまだ少ない状況。

・10月号完成後は1月号の発行準備に取り掛かるので、その際には再度各部へ協力の依頼をお願いしたい。

##### ③広報企画グループ

・OTリーフレットに関する情報収集を行う。

・広報部内での連絡を行う際に使用するメーリングリストの検討と作成を行う。

・ニュース掲載用に県内で行われている勉強会などの写真や記事の作成を検討。

・継続して他グループとの連携を取りつつ、必要な情報の発信や企画の検討。

【審議事項】無し。

### 3. 地域作業療法推進部活動報告

#### 1) 各グループからの報告事項

〈地域包括ケア推進グループ(真塩グループ長)〉

①8月16日(木)介護予防に資する人材育成のための研修会(北中毛ブロック)を渋川センターにて実施。作業療法士46名が参加。

②9月13日(木)介護予防に資する人材育成のための研修会(東毛ブロック)を太田記念病院にて実施。作業療法士30名が参加。

③平成31年度 群馬県地域医療福祉総合確保基金要望書(総事業費601,000円、内士会負担金151,000円)を群馬県庁地域包括ケア推進室へ提出。

④10月3日群馬県「健康寿命延伸・介護予防に関する市町村トップセミナー」へ土屋部長、青木副部長の2名が参加予定。

〈認知症ケア推進グループ(松井グループ長)〉

①現在、10月21日開催予定の「認知症ケア資質向上のための研修」に向け、チラシを作成し、県士会員や県内介護保険関連事業所へ発送手続き中。

②平成31年度 群馬県地域医療福祉総合確保基金要望書(総事業費877,000円、内士会負担金220,000円)を群馬県庁介護高齢課へ提出。

③10月27日 日本作業療法士協会主催 平成30年度認知症作業療法推進委員会へ廣崎推進委員、松井グループ長の2名で参加予定。

〈発達支援推進グループ(北爪グループ長)〉

・「外部専門家配置事業」継続中。

・勉強会9月13日実施予定。テーマは前回より継続課題。

・講師依頼

「山梨県士会特別支援教育委員会」より研修会講師依頼がある(北爪宛て)。「群馬県士会の特別支援教育に対する取り組みと現状」について講義予定。期日は9月25日 19:00～、会場は「大木記念ホール」。

〈精神科領域推進グループ(加藤グループ長)〉

- 平成30年度「自殺予防対策研修会」の実施について  
平成31年2月2日(土)13:30～15:30 群馬県勤労福祉センターで決定。会場予約の都合で、定員はスタッフ含めて200名に変更。講師は、増川ねてる氏で最終決定。現在、公文書作成依頼中。
- 10月中旬に第3回グループ会議を実施予定。平成31年度自殺予防基金の申請内容等について検討予定。
- 県内の精神科病院所属の一部の作業療法士より、勉強会や意見交換会の開催の要望が挙がっている。交流の場の設置について、潜在的なニーズが感じられ、今後、場の運営方法について検討していく。

2) その他

8月25日(土)ドリームバスケットボールキャラバンの実施報告  
ハーモニー高崎ケアセンターで実施。県内の精神障害者当事者、支援者、一般参加者13名が参加された。次年度も実施予定。詳細別紙資料参照。

【審議事項】なし。

#### 4. 学術部活動報告(担当理事 李・市川)

学術部長 牛込祐樹

学術研究グループ グループ長:近藤 健

【報告事項】

- 平成30年度の学会支援勉強会を7月から開始した。参加者は11名。7名の会員がOT学会(福岡)に抄録を投稿する準備を進めている。4名の会員は自己学習のため参加している。
- OT学会(名古屋)へのポスター作成支援を4名の会員に行った。

【審議・検討事項】なし

学会支援グループ グループ長:野口直人

【報告事項】

- 第21回群馬県作業療法学会に関する公文書の作成・送付を行った。

【審議・検討事項】なし

機関誌編集グループ グループ長:糸井陽祐

【報告事項】

- 8月に機関誌「ぐんま作業療法研究 vol.20,2017」を発行した。
- 「ぐんま作業療法研究 Vol.21,2018」の発行に向け準備中。
  - ①学会誌との統合に向けて、学会支援グループとの協議開催。10月に原稿データ集約、校正、印刷業務開始、11月中旬に会員へ発送予定。
  - ②投稿論文は昨年度未掲載分2編、今年度投稿分1編を掲載予定。
- 8/16(木) 機関誌編集グループ会議を開催した。

【審議・検討事項】

- 機関誌デザイン案について  
「ジャーナル印刷」にデザイン案依頼し、4パターン提案あり。(別添資料) 機関誌編集グループ内では、3番目を第一候補として、4番目を第二候補として理事会に推薦したい。  
→ 賛成多数で承認。

養成校連絡協議会(担当理事 李)

【報告事項】

- 厚生労働省「PT・OT養成校施設カリキュラム等検討委員会」の結果が10月3日公表される予定、各養成校と連携しながら、対策を講じていきたい。

【審議・検討事項】なし

#### 5. 福利厚生部(市川)

- 1) PowerPointでのオリエンテーションについて  
別紙資料参照。各部スライド3枚程度。写真は最大20枚。時間は6分。
- 2) RFLの参加者について  
10月6、7日。参加予定者が20名前後。再度呼びかけを。県士会HPの掲載(リンク、申し込みフォーム)
- 3) 9月13日の東毛ブロック支部主任者会議について  
福利厚生的な提案、ブロック内の交流を持ち、顔の見える関係作り。西毛・北中毛ブロック支部においても提案行い案を募ってもらいたい。(西毛→関根、北中毛→市川) 次回、11月予定の福利厚生部会で大まかな予算案を検討。
- 4) 県学会の優秀演題賞の1次選考終了  
野口学会事務局長にデータを送信した。
- 5) ママさん会員向けのアンケートを作っている。  
【審議・検討事項】リレーフォーライフの催し物について  
前回あんでるせん手芸。新たなアイデアが欲しい。持って帰れるものが良いか。折り紙、塗り絵等。意見がある場合は市川理事へメール等で連絡。  
次回福利厚生部会:11月ごろを予定。

#### 6. 事務局資料 事務局:長谷川明洋

【報告事項】

- 1) 委嘱状交付について  
9月中旬に委嘱状交付を行う。
- 2) 2018年度名簿発行  
現在会員名簿の作成行っている。10月上旬に発行予定。
- 3) 財務部 会議予定  
財務部の役割分掌等について会議予定。日程は調整中。部長業務の引き継ぎ等の確認も行う。

【審議事項】

- 1) 2019年度以降会員管理システムの一本化について  
〈現状〉  
各種手続きについて、県士会とOT協会の2つの手続きを要している。  
休会については県士会としての規定を現在調整中。日本作業療法士協会を休会すると自動的に県士会も休会となるような規定にする予定。県士会のみ休会は無し。  
入会・転入・退会・転出は県士会、OT協会ともに届け出る必要あり。それ以外は、OT協会の届け出のみとする。  
施設在籍しているOTが、自宅会員の場合には、OT協会の登録情報を元に管理する。自宅会員に限り、発行物はOT協会ポータルサイトの区分に沿って対応する。→自宅会員に対しては通知をして周知する必要がある。

〈今後の作業手順〉

- ①OT協会会員システムの名簿と、2018年度現在の県士会名簿の照合作業。
  - ②不一致会員の具体的な洗い出し。
- 2) 規約に関して  
旅費・交通費規定、謝金規定、会議費規定、学生会員規定、シニア会員規定、休会 10月以降掲載予定。  
修正等がある場合は、メールにて連絡すること。  
承認。
  - 3) 2018年度組織図・担当理事の主幹について

ブロック支部の位置づけは、局として機能させていくのが良いのではないかと。但し、POS連絡協議会との連携体制が不明確となっている。POS連絡協議会は当法人とは別組織でありながらも、連携した動きが必要であり、当法人として、人材や資金の拠出もしている。POS連絡協議会自体も、県支援センターの委託を受けたことや委託事業の規模も大きくなっており、組織改変や法人化の検討も必要になっている。各会長・副会長レベルであり方について話し合う必要がある。新井会長から各会長へ、POS連絡協議会のあり方検討の場を設ける必要性について提案する。

→ 2018年度の組織図は暫定的なこの形のみで承認

→ ブロック支部の構成は次回、山口副会長から承認

#### 4) 運転と作業療法特設委員会の活動について

##### ① 研修会開催

第6回自動車運転リハビリテーション研究会  
研修会2018年10月13日(土) 12:00~17:30  
群馬県公社総合ビル

② 教習所協会及び警察関係者、県士会との3者協議について  
OT協会の運転と作業療法特設委員会から、各県士会への支援事業として3者協議の場の設定の支援を希望県士会に行うことが通知。県士会としては希望したいところ。参加予定者は、運転と作業療法特設委員会委員長 安原氏、事務局長谷川、その他運転と作業療法特設委員会委員数名。可能であれば、会長、副会長も参加を。  
【審議事項】参加希望提出の可否 → 承認。

##### ③ 指定自動車教習所指導員との交流会について

2018年10月17日(水) 運転と作業療法特設委員会の委員及び、ぐんま自動車運転リハビリテーション研究会世話会会のメンバーと指導員との意見交換会を実施予定。

##### 5) 臨床実習指導者研修に関して

参加予定者(敬称略)

柴田(第一病院)

佐藤(介護老人保健施設うらく)

市川(群馬リハビリテーション病院)

長谷川(群大病院)

もう一人は打診中。

【審議事項】研修会参加費用の拠出について、旅費を県士会から拠出するか?

→ 費用についてはOT協会事務局に確認を。(新井)申し込みは進めていく。

県士会として、拠出することで承認。

その他

臨床実習指導者の養成に関して、養成校連絡協議会(李)としては、

・養成校の実習依頼先の数を確認。

・県士会として受け手の数を確認。が必要。

### Ⅲ. その他各部からの連絡事項

特になし。

次回 2018/11/28(水) 第4回理事会

## 平成30年度 第4回 理事会

会場：群馬医療福祉大学 前橋キャンパス  
元気プラザ21内6階 会議室

日時：平成30年11月28日(水) 19:02~21:53

参加者：新井、山口、関根、小林、勝野、高橋、品田、高坂、柴田、市川、長谷川、都丸、中嶋(記録者) 計13名

### I. 会長から

来年度の組織体制について検討する必要がある。  
理事の人員についての検討が必要であり、人員の異動なども含め次回の理事会で来年度体制を固めていく。

### II. 各部議事

#### 1 教育部活動報告

【報告者 教育部部長 今村雄二(孫の手)】

##### 1) ブロック長会議

10月12日 19:00~21:00 博仁会第一病院にて  
新人症例発表、現職者選択研修、基礎研修など来年に開催が多いので、もれずに準備を進めている。申し込みフォームに関する連絡経路確認について、理事会報告より、規約変更に関して、対応できるよう共有したブロック支部体制に関して協力依頼があれば協力を促した。次年度の体制に関して、新研修受付システム動向がないため、現状で運営していく旨共有。

##### 2) 研修会報告 11月11日 現職者基礎研修

身体領域 「脳卒中片麻痺に対する上肢機能練習」  
9:00~ 講師 平石武士OTR 日高リハビリテーション病院にて  
収入 111,000円 支出 80,678円  
時間が押す、駐車場前々日変更などイレギュラーあり。片づけ

終了18時などスタッフ負担を考慮し、講師と今後折衝していく。  
事前案内の遅れもあり定員割れ。声掛け行っていく。当日キャンセル3名あり。学生会員は現状まで参加なし。

##### 3) 生涯教育制度推進委員担当者会議 2018.11.17

報告者 柴田

2019年度から、生涯教育システムの運用方法について変更する。  
PC管理、バーコード受付、研修会登録を行う予定  
12月から各士会へ順次システム一式を送付(事務局宛)される  
PC、バーコードリーダー、モバイルルーターが貸与  
2019年4月1日からシステム稼働予定で実際の運用は4月中旬から

2018年度他団体・SIG等実態調査を実施  
団体の事務局(所在地・tel・fax・e-mailアドレス)、代表者(もしくは事務局長)氏名、直近の学術活動等の実績について調査を実施

教育部 生涯教育SGの人員の強化

→ 2019年度は運用開始年になるためなるべく県士会で行う  
研修会に配属

##### 【審議事項】

システムの運用に伴い、研修会等の参加者は協会番号が発行された方のみとしても良いか?

今までは、研修会受付時点で申請中であれば参加を認めていた。今後はニュース等で早めの会員登録を促していく。

→ 研修会の参加者について日本作業療法士協会の会員番号が発行された者のみとすることで承認。

SIG認定の研修会では、協会員で群馬県士会非会員の方もポイント発行する。

## 2. 地域作業療法推進部活動報告

### 1) 地域包括ケア推進グループ(真塩グループ長)

#### 【報告】

- ①9月28日(金)介護予防に資する人材育成のための研修会(西毛ブロック)を高崎市総合福祉センターにて実施した。作業療法士50名が参加した。
- ②10月3日(水)群馬県主催の「健康寿命延伸・介護予防に関する市町村トップセミナー」に土屋部長・青木副部長が出席した。
- ③11月19日(月)グループ会議を実施した。研修会の振り返り、アンケート結果の報告、群馬県作業療法学会の一般公開講座に向けて準備・確認、会計報告を行った。
- ④群馬県作業療法学会の一般公開講座について、学会運営側と講師・講演内容に関する調整を行った。

### 2) 認知症支援推進グループ(松井グループ長)

#### 【報告】

- ①10月10日(水)認知症ケア資質向上のための研修②チラシ発送作業及びグループ会議を行った。
- ②10月21日(日)認知症ケア資質向上のための研修①を群馬県公社総合ビルにて実施した。作業療法士48名、理学療法士9名、言語聴覚士3名、介護福祉士24名、看護師11名、介護支援専門員8名、その他17名など、120名が参加した。22日(月)の上毛新聞に内容が掲載された。
- ③11月17日(土)認知症ケア資質向上のための研修②を昌賢学園まえばしホールにて実施した。作業療法士46名、介護福祉士22名、看護師7名、介護支援専門員7名など、107名が参加した。
- ④10月27～28日、日本作業療法士協会主催平成30年度認知症作業療法推進委員会へ廣崎推進委員、松井グループ長が参加した。

### 3) 発達支援推進グループ(北爪グループ長)

#### 【報告】

- ①「外部専門家配置事業」継続中。
- ②勉強会9/13(内容:前回継続課題、参加者18名)11/8(内容:事例検討、参加者16名)。次回1月10日を予定。
- ③HP担当を群馬整肢療護園 福山竜司氏とした。現在作成中。
- ④山梨県士会主催研修会は高速道路事故閉鎖の為11月30日に延期。会場等は変更なし。

### 4) 精神科領域推進グループ長(加藤グループ長)

#### 【報告】

- ①10月2日(火)グループ会議を行った。主に次年度の「自殺予防対策研修会」の内容について検討を行った。
- ②10月18日(木)群馬県健康福祉部障害政策課精神保健室に「平成31年度地域自殺対策強化事業計画書」を提出した。普及啓発事業270,000円(研修会)と76,000円(ノベルティグッズ作成)、計346,000円で申請した。事業費は、全額群馬県が負担予定。(詳細別紙参照)
- ③「平成30年度地域自殺対策強化事業」に基づき、クリアファイル1000部作製した(まえばし健康フェスタ2018で一部配布済)。ワークプラザ虹のHIDEKUN氏のデザインを採用した。
- ④11月9日(金)精神障がい領域で働く作業療法士のための情報交換(外来OTや訪問看護・リハについて)を企画、群馬医療福祉大学リハビリテーション学部にて実施した。精神科病院や関連施設に所属の作業療法士23名が参加した。

### 5) その他

#### 【審議事項】

研修会事業は来年度より、各ブロックでの実施へ移行していきたい。  
ブロック支部についての組織化などと関連して今後検討する

## 3. 広報部

#### 【報告】

### 1) 公益事業グループ

10月28日(日)に健康フェスタに参加し、昨年同様プラ板キーホルダー作りを実施昨年より多い185個程来場者に作製して頂いた。

平成31年1月20日(日)に高崎イオンにて作業療法フェスタ2019を開催予定。

作業療法フェスタの実施内容等を12月上旬～中旬で部会を実施予定

学生ボランティア依頼 →1/20 OTフェスタ実施に関して、運営スタッフとして20名程は必要と思われる、学生ボランティアを10名程度お願いしたい。

### 2) ニュース編集グループ

①現在、県士会ニュースは年明け1月号の発行準備中。今年度は1月号が最終号。何か掲載したい記事がある場合には、12月25日を目安に記事を送付して頂きたい。

②ニュース編集部のみでは記事内容に限界があり、今後もできる限りの協力・連携をお願いしたい。

③来年度以降に写真等の一部のカラー化、表紙の作成を検討中。

④カラー見積。星野印刷様(現在の業者)写真カラー1000部:¥148,000、表紙のみ:¥116,000。※よほどページ数が増えない限りは校正費も込みの値段、枚数で値段は増減。

⑤エムケイ製作所様(相見積)写真カラー1000部:¥120,000、表紙のみ:¥98,000 ※校正費は別途必要。おおよその記事構成も県士会で行う必要あり。

→金額や部の負担を考えると現在の星野印刷様のままで、「表紙のみカラー」依頼を検討。

### 3) 広報企画グループ

①OTリーフレットの更新に向けて各グループ長と内容の検討を行い、印刷会社への見積りの依頼を行っている。

②H30年度のOTフェスタに向けて上毛新聞社への取材依頼を行っている。

③継続して他グループとの連携を取りつつ、必要な情報の発信や企画の検討を行う。

#### 【審議事項】

1) 来年度のニュース印刷費について。

金額や部の負担を考えると現在の星野印刷様のままで「表紙のみカラー」依頼を検討したい。金額:116,000円で今年度に比べ1回あたり19,750円増(年間79,000円増) ※今年度印刷費:1000部:96,250円

→変えること自体は承認。

内容の検討が必要。

配布先なども検討をする必要がある。

## 4. 学術部活動報告

(担当理事 李・市川) 学術部長 牛込祐樹

#### 【報告】

### 1) 学術研究グループ グループ長 近藤 健

平成30年度の学会支援勉強会を7月、8月、9月、10月の4回開催した。

現在の参加者は9名。5名の会員がOT学会(福岡)、3名の会員がリハ医学会に抄録を投稿する準備を進めている。

第21回群馬県作業療法士学会の査読を15演題実施した。(身障領域:12名、精神領域:2名、介護保険領域:1名)

- 2) 学会支援グループ グループ長 野口 直人  
第21回群馬県作業療法学会に関する公文書の作成・送付を行った。

第21回群馬県作業療法学会の第2回実行委員会を開催した。

- 3) 機関誌編集グループ グループ長 糸井 陽祐  
「ぐんま作業療法研究 Vol.21,2018」の発行に向け準備中。  
学会誌との統合に向けて、学会支援グループとの協議開催。  
原稿データ集約・校正を終え、現在印刷業務実施中。県学会開催前に発送予定。  
投稿論文は昨年度未掲載分2編、今年度投稿分1編を掲載予定。

#### 【審議・検討事項】

##### 学術研究グループ

県学会の一般演題は身障領域に偏りがある。発達、精神、地域、介護保険領域の演題を増やすために、精神科領域推進グループ、地域包括ケア推進グループ、認知症支援推進グループ、発達支援推進グループ長に働きかける必要がある。(毎年各グループに所属している施設から1つ出してもらっただけでもその領域の発展につながると思われる)  
各グループへのアナウンスを行うことは可能

## 5. 養成校連絡協議会報告(担当理事 李)

#### 【報告事項】

- 1) 厚生労働省「PT・OT養成校施設指導ガイドライン」が公表された。SV要件は、①臨床6年目、②OT協会「臨床実習指導者中級・上級研修」受講者(OT協会関連アナウンス参照)
- 2) 協議会が県内施設を対象にSV養成計画を調査する  
2019年5月を軸に調整していく。  
(4養成校の県内施設への実習依頼件数は収集済み:延べ244回)
- 3) 学生向け実習実態調査:12~3月に実施。  
結果は「からっ風通信」・6月の主任者会議で概要、「ぐんま作業療法研究」で詳細報告。

## 6. 県士会組織図に関して 山口副会長

#### 【審議事項】

- ①ブロック支部の局化と副会長の増員について。  
4局化することで承認。4局化することで副会長職も増員する。  
ブロック支部の局化における名称については検討する。
- ②支部の機能強化における連絡会議の有無について  
連絡会議については必要に応じて開催する必要がある
- ③ブロック長の扱いについて  
2019年度よりブロック長は理事相当とすることで承認。  
2019年度改選において、ブロック長は選挙に立候補いただく。
- ④保険部の存続・解消。  
本年度特に目立った活動はないため部としての活動は終了とすることで承認。
- ⑤事務局機能の強化に向けた新部署設置について  
庶務部等の新設など、来年度事務局の体制に向けて準備が必要。名称、グループ等の新設については事務局内で立案する。

- ⑥福利厚生部の改組の必要性。

福利厚生部の改組については、今後、事務局及び事業局等の業務整理において、検討していく。

リレーフォーライフなどは広報部の活動の方が相応しいとの意見もあり、福利厚生部の事業内容についても検討を要する。

- ⑦POS連絡協議会への人員配置について。

→POS連絡協議会が群馬県地域リハ支援センターの指定を受け、改組に向けた動きがある。現状では、一部担当者がPOSの業務を担っているが、県OT士会との明確な位置づけはされていない。別組織であるとはいえ、連携・連動が必要な組織であるため、それらを踏まえた組織図を検討する。

## 7. 事務局資料 事務局 長谷川明洋

#### 【報告事項】

- 1) 講師謝金規定、交通費・旅費規定を掲載
- 2) 教育部 現職者選択研修等の研修会 事前申し込みフォーム設置
- 3) HPの運用について  
HPリニューアル後1年経過。リニューアル後:総閲覧数51,209訪問数24,590月平均2000訪問となった
- 4) 閲覧媒体については7割ほどがスマートフォン・タブレット端末からの閲覧。  
研修会等の申し込みについては、メールなどよりも、フォーム入力の方が簡便でありHPの活用を推進していく

#### 【審議】

学術誌ぐんま作業療法研究に関する複製許諾依頼について  
→承認。著作権料は無料。

## 8. 運転と作業療法特設委員会の活動について

#### 【報告】

- 1) 研修会開催  
第6回自動車運転リハビリテーション研究会研修会 2018年10月13日(土)12:00~17:30 群馬県公社総合ビルにて実施
- 2) 群馬県指定自動車教習所 指導員との交流会  
第1回交流会:2018年10月17日(水)前橋赤十字病院にて  
参加者:教習所指導員8名(7施設)
- 3) 教習所協会及び警察関係者、県士会との3者協議について  
OT協会の運転と作業療法特設委員会から、各県士会への支援事業として3者協議の場の設定の支援を希望県士会に行うことが通知された。(前回理事会報告)  
⇒申請済み 結果:採択

【審議事項】特になし。

## 8. 臨床実習指導者研修に関して

#### 【報告】

- ・指導者研修の参加者について  
県士会から5名参加する予定。

#### 〈参加者〉

第一病院 柴田氏  
群馬リハビリテーション病院 市川氏  
美原記念病院 中島氏  
介護老人保健施設うららく 佐藤氏  
群大病院 長谷川氏

- 2) 2019年度以降、県士会での指導者研修の実施について  
研修終了後に検討していく。
- 3) 理学療法士・作業療法士養成施設指導ガイドラインの周知  
について
- ① 県士会のHPに案内周知文及び、資料PDFの閲覧ができる  
ようにした
- ② メール登録施設に対して案内通知
- ③ 県士会ニュース等での通知(広報部と連携)

## 10. 福利厚生部活動報告 市川

### 【報告】

- 1) リレーフォーライフの報告(設楽・関根)
- ① H30.10.6~7 ALSOK総合スポーツセンター 参加者  
は約30名強  
→ がん拠点病院の参加人数が減った。自分の病院でRFLに  
参加していると県士会への参加は困難。  
→ 老健や小児の病院等が関連病院以外から声をかけていく。
- ② からっ風通信(ニュース)の掲載依頼していく。
- ③ 作業療法を普及、広報の一環としても組みたい。
- ④ 次年度リレーフォーライフの準備については7月初頭から行  
っていく。
- 2) 2018年度県学会表彰等について  
・ 表彰進捗状況報告(小田)  
学術奨励賞、優秀演題賞の進捗状況の確認。平成31年度の県  
学会実行委員会(西毛)に早期から関与していく必要あり。→ 平  
成30年度(北中毛)引き継ぎから関わっていく。  
△ 審査シートの修正 → 理事会に提案。審査趣意をHPに載  
せられると良い。  
△ 二次審査の発表者への審査内容の通知を行う。
- 3) オリエンテーション資料について(設楽部長)  
オリエンテーション資料の作成について  
Googleドライブを活用。各部でフォーマットをダウンロード

- し、作成後アップロードして頂く。Googleアカウント  
gaot.welfare@gmail.com パスワード:gaot1234  
作成した資料について:学会、研修会等の昼休みなどの時  
間を利用し会場内で資料を映写する。
  - 4) ママさん会員のアンケート(市川理事)
    - 1) 福利厚生部のメーリングリストで意見を募集。  
アンケート内容の校正を行っていく。  
1月アンケート完成、4月からアンケート実施を目標。
  - 5) ブロック別の福利厚生部企画(設楽・市川)  
・ 北中毛、東毛からは交流会の提案があった。  
地域ごとの特色に合わせて交流会等の企画を検討する。
  - 6) その他  
・ 次回福利厚生部部会1月16日(水) 公立藤岡市民病院(予  
定)
- 【審議事項】
- 1) 活動実績、履歴のホームページへ掲載することについて  
承認

## Ⅲ. その他各部からの連絡事項

特になし。

次回 2019/1/23(水) 第5回理事会

## 県士会 かわら版

### 財務部からのお知らせとお願い

会費の支払いは、お済ですか？

今年度も、早くも残りわずかとなってまいりました。今年度の会費の支払いはお済でしょうか？未払いの方には、登録先の住所に入金依頼書を送らせて頂いております。お手元に届いている方は、お早めに入金をお願いいたします。また毎年、日本作業療法士協会の会費未納により強制退会となり、群馬県作業療法士会も退会となってしまう方が増えております。協会への入会が、県士会への入会の必須事項となっております。協会費には、業務時の事故等に対応する作業療法士賠償責任保険基本プラン等の保険代金も含まれております。期限内の会費の入金とともに、協会の入会継続をお願いいたします。

また、春は移動の季節でもあります。勤務先、転居先等の移動がありましたら、早めに事務局にお知らせください。特に、4月から県外への転出の場合は事前に、日本作業療法士協会と群馬県作業療法士会事務局に御連絡頂きますようお願いいたします。詳しい手続き方法は各ホームページを参照して下さい。なお不明な点等ございましたら、会員番号をご準備の上、事務局にお問い合わせ下さい。

【連絡先】

群馬県作業療法士会 TEL&FAX:027-224-4649(平日(水曜除く):9:30~14:30)

日本作業療法士協会 TEL:03-5826-7871 FAX:03-5826-7872(平日9:00~17:00)

### 教育部からのお知らせ

## 新人症例発表会があります！

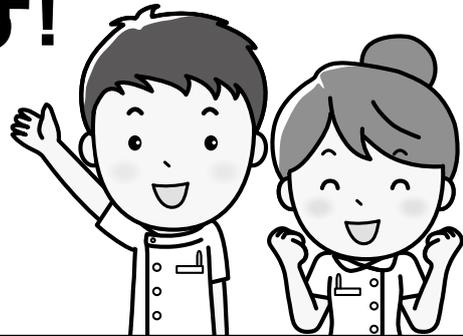
【日時】 平成31年4月21日(日)

9:30より受付開始

【会場】 高崎市総合福祉センター

詳しくは、

群馬県作業療法士会HPを参照してください。



### ～生涯教育システムの受付方法変更のお知らせ～

日本作業療法士協会(群馬県作業療法士会)主催の研修に関して、受付方法が変わります。

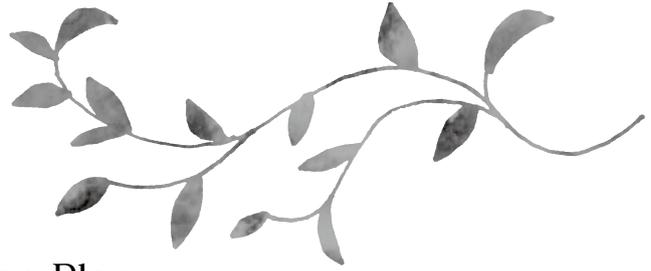
2020年度からの各研修会受付では、研修受講カードのバーコードを読み取り受付する方向で準備をしております。今までは生涯教育手帳を使用し、お忘れの際は参加証明書を発行し、後日対応しておりました。しかし、今後は研修受講カードをお忘れの場合には作業が非常に煩雑になる可能性がありますのでお忘れないうちにお願ひします。また、以前より新卒の方や、途中入会の方など研修受講カード(会員番号)が未着という状態で研修に参加される方もいらっしゃいましたが、今後は研修受講カードが発行されていない状況ではポイント付与されません。非会員扱いでの参加となってしまいますので今回の変更にあたり早めのご入会をお勧めします。作業療法士としてのスキル、そして、認定作業療法士に向けて着実に受講を進めていただきたいと思いますのでご理解とご準備のほどよろしくお願ひ申し上げます。



研修受講カード  
(入会后OT協会から届きます)

# 意味のある活動と WRAP

The Wellness Recovery Action Plan



WRAP(ラップ)とは、精神障害のある人たちによって作られたリカバリーにつながるためのツール(道具)です。

本研修では、WRAPファシリテーターとして著名な増川ねてる先生をお迎えして、WRAPとは何か?リカバリーとは?についてお話いただく予定です。当事者や専門職の垣根をとり払い、一人の人間として、元気で日々過ごしていくにはどんな方法があるか、皆で語り合える機会になれば良いなと思っています。WRAPをご存知の方も、そうでない方も是非お気軽にご参加ください。

講師: **増川ねてる** 先生  
WRAPファシリテーターアドバンスレベル

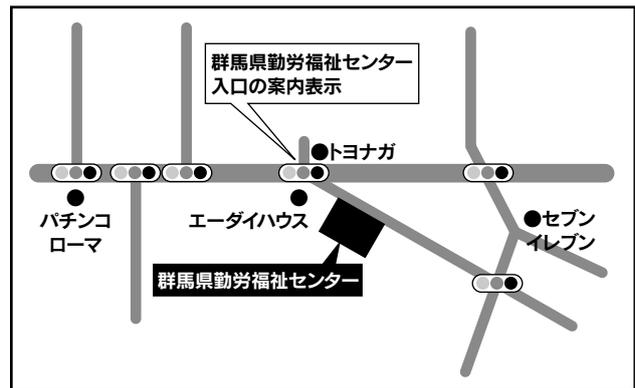
平成31年2月2日(土)  
13:30~15:30

場所: 会議室  
(群馬県前橋市野中町361-2)  
JR両毛線前橋大島駅北口徒歩15分(約1km)

対象: 当事者・支援者・一般参加者

定員: 200名

費用: 無料



参加申し込み方法: FAXまたはメールでお願い致します

- ◎締め切り: 平成31年1月31日(木)
- ◎FAX: 必要事項を記入の上、0270-75-0017にお送りください。
- ◎メール: seishin\_ot\_gunma@yahoo.co.jpに
  - ①施設名 ②担当者 ③連絡先(電話番号)
  - ④参加者氏名を記載して送信してください。メールの件名は「自殺対策研修参加申し込み」としてください。



お問い合わせ TEL/FAX: 0270-75-0017  
メール: seishin\_ot\_gunma@yahoo.co.jp

医療法人原会ワークフォー伊勢崎  
作業療法士 加藤智弘

本研修は、日本作業療法士協会生涯教育ポイント対象(基礎研修2ポイント)です。  
当研修会は、平成30年度群馬県地域自殺対策強化事業補助金の一部助成を受けて実施されています。

## 第21回群馬県作業療法学会に参加して

医療法人 大和会 西毛病院  
群馬県士会 広報部 ニュース編集グループ 反町拓海

12月2日に行われた第21回群馬県作業療法学会へ参加させて頂きました。開催前のポスター等のお知らせから講師の先生方の名前を拝見し、非常に楽しみにしての参加となりました。

基調講演の堀越啓仁先生は、皆さんご存知の通り、OTでありながら衆議院議員としてご活躍されており、普段の臨床や研修会では聞くことのできない政治の関係したお話から作業療法の今後について話して下さいました。つい敬遠しがちになってしまう政治の話でしたが、非常にわかりやすく話して下さい、興味深く聞かせて頂きました。また、「作業療法のこれから」と題して、堀越先生の考える超高齢化社会から向かえることになる多死社会についても死生観という視点からOTに何ができるのか、何をすれば良いのか等のお話もあり、自身のOTとしての今後についても考えさせられる貴重な講演でした。

一般公開講座では埼玉県立精神医療センターの宇田英幸先生のご講演でした。宇田先生のお話は以前も学会で拝聴させて頂きましたが、今回のお話も改めて「作業療法ってすごい」ということや原点に帰る必要性を強く感じました。普段の業務でつい忘れがちな作業療法士としての基本や大切なことに気付かされるお話でした。私自身が身を置く精神科領域は集団療法が基本なこともあり、「患者さま個人への視点」が抜けがちな印象があります。そんな部分を改めて考え直さなければいけないということを振り返ることができ、今までの反省と新たな目標を作らせて頂いた時間となりました。

身体障害領域、発達障害領域、精神障害領域と各ワークショップも行われていましたが、私自身精神科病院への勤務ということもあり、訪問看護ステーションKAZOC(東京)の渡邊乾先生による講演を拝聴させて頂きました。未だ収容型、長期入院の現状が続く精神科領域の課題でもある「地域に出る」ということについて、渡邊先生の考えや活動報告を通してお話して下さいました。なかなか精神科領域では地域での実践報告を聴く機会がなく漠然としたイメージの中での講演でしたので非常に感銘を受ける内容となっていました。ハウジングファーストやオープンダイアログといった「言葉だけは知っているけど、いまいちわからなかった」事についての実践も聴くことができ、こちらも貴重な時間を過ごさせて頂きました。

基本的には各種講演を主に参加させて頂いた学会でしたが、講師の先生方に共通していることは、強い信念を持っているということを感じ、知識・技術を身に付けることはもちろんですが初心を忘れず、「患者さんファースト」という信念を持ち続けていこうと思いました。

最後に、大変ご多忙の中、事前準備から当日の運営までご尽力され、貴重な時間を作って下さった実行委員の皆さま、学術部の先生方に感謝申し上げます。



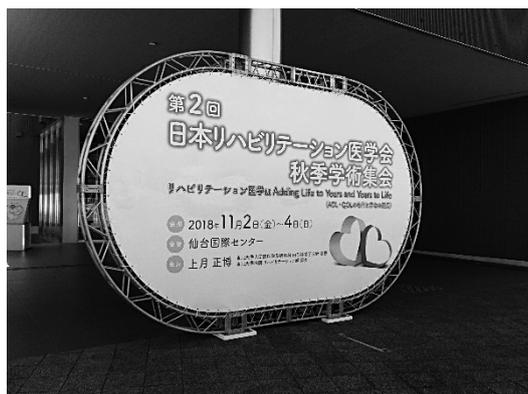
## 第2回 日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会に参加しました

学術研究グループ  
公立藤岡総合病院 近藤健

平成30年11月2日から4日に日本リハビリテーション医学会秋季学術集会が仙台国際センターで開催されました。この学会は、主にリハビリテーション医師の学会ですが、コメディカルも参加や発表ができる学会です。最新のリハビリテーションの動向を知ることができる学会でした。

特に印象が強かったのは、「AIによる評価」、「ロボットによる転倒予防」、「機能回復のための治療機器」の開発が進んでいることでした。スマートリハ室構想は、今まで各セラピストが断片的に評価していた内容をAIを用い統合、分析、フィードバックする構想です。今までデータとして蓄積できなかった動作中のリアルタイムの評価も分析できることにより、より本質的な治療が展開できることが期待できるそうです。また、BI、FIM、ICFなど今まで人間が観察で評価していたものを自動化することも研究が進んでいました。ロボットによる転倒予防として、施設や病院では排泄に関する転倒が多いことから、排泄のタイミングを感知し、自動走行機能がついたロボットが迎えにきて、歩ける人は歩行車として、歩けない人は車いすとして、トイレまで誘導できる機器が開発されていることには驚きました。機能回復のための治療機器では、特に脳卒中麻痺の重度障害に対して、Brain Machine Interfaceの市販化、実用化が進んでいました。このような近未来的なことがもうすでに一部の施設では行われており、これらが常識になる日は遠くないかもしれません。そうなった時、私たちの今行っている仕事は変化することは間違いなく、もしくは、最新の設備のある施設とない施設の格差は大きくなるかもしれません。

来年は6月に神戸で国際学会と共催で開催され、11月に静岡で開催される予定です。学術研究部グループでもOT学会だけではなく、この学会で発表できる会員の指導を行っています。本学会に参加することで、リハビリテーションはどのような方向に向かっているのか、その中で作業療法士はどのように貢献するのか考えるきっかけになると思います。





# リレー・フォー・ライフぐんま



福利厚生部 設楽俊史

リレーフォーライフとは、がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指すチャリティ活動であり、群馬での開催は6回目となっています。その中で、「がん患者さんは24時間戦い続ける」という意味で、24時間フラックをつなぎながら歩く「リレーウォーク」がありました。多くの病院や群馬県理学療法士協会などの各職団体ら、87チームが参加しており、昨年度より群馬県作業療法士会も参加しています。

群馬県作業療法士会は県士会員32名、学生会員6名が参加し、交代でフラックをバトン代わりに24時間つなぎ続けることが出来ました。今回、初参加の県士会員もおり、イベントのすばらしさに賛同され、非常に楽しく、来年度も参加したいとの声が聞かれています。

また、今年は群馬県作業療法士会のブースで、「元気のなる木」を行い、来場者の子供から大人まで参加してくれました。自らの大切なものを画用紙に書き、模造紙の木につけてくれ、改めて、大切なものを再認識するよい機会になったようです。

今後も、当イベントへ参加していきます。子供も大人も楽しめるイベントなので、運動をしたい方、他県士会員と交流を持ちたい方、子供と行くところがない方など、多くの県士会員の皆様の参加をお待ちしています。1時間2時間でもよいので参加してください。



## 大人の文化祭

副会長 関根圭介

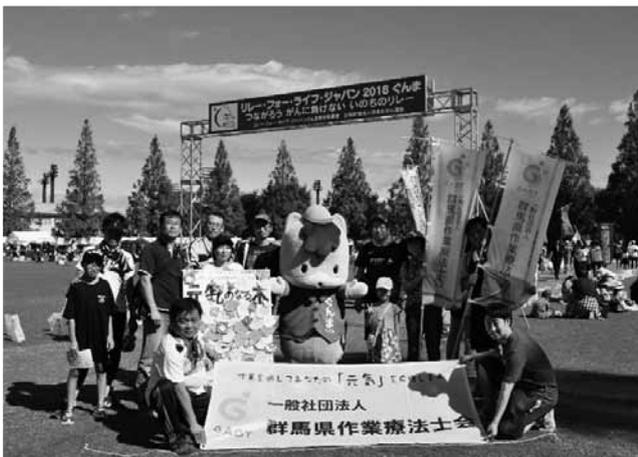
会員の皆様、働き方改革が推進される中で、日々目の前の対象者のためにできることを業務と共に勇往邁進されていると推察致します。忙しい中で身を削って頑張っているというのわかりやすいでしょうか。

さて、県士会ではチャリティーイベントのリレー・フォー・ライフ・ジャパンに賛同し昨年より参加しております。私なりに参加する目的を挙げると、①広報活動と②会員間の交流、そして③参加者自身が楽しむことだと思っています。リレーウォーク中に横にいる参加者やブースに来て下さった参加者とOTの話ができます。また、OT会員であつても職域が違う普段あまり顔を合わせない人と仲良くなったり、意外な一面を発見したりと交流できます。そして一番大事なことです。ある人は黙々と歩くだけで誰かの役に立っている感覚とそう快感を味わっていましたし、私は準備の段階から患者さんとパネル作成を楽しみながら行い、当日はがんサバイバーやいろんな方と交流できるのが楽しくて本日10月8日ですが来年参加に向けて日程調整を始めています。

参加するにあたって、いろんな意見を聞きますが・・・

- \* 業務命令・頼まれて参加→役割分担をこなすだけ、いやいや参加、もういいかな
- \* 自らが参加の意思や目的を持った参加→会場のポジティブないい空気が吸える

思い出してください。高校時代などの文化祭で時間を忘れて何かを成し遂げたこと、夜の学校で友人と非日常を味わったこと。このイベントもそんなことが体験できるかもしれません。ルールの下で楽しんだもの勝ちです。



### 参加した県士会員の感想

介護老人保健施設たまむら 田島志保

去年に引き続き、夜間のリレーウォークに参加しました。人見知りな自分ですが、同じ目的を持ち、歩くことで自然に会話することができ、人との交流が楽しい時間となりました。

また、「がん」について改めて考える機会や、他の病院・施設の方と関われる貴重な時間を過ごすことができました。

来年また、参加していきたいと思えます。



# 健康フェスタinまえばし2018 報告資料

榛名荘病院 あけほの苑 作業療法士 根津良介

2018年10月28日に開催された健康フェスタinまえばし2018に参加した為以下に報告いたします。

広報部は一昨年より作業療法士の認知度向上を目的として健康フェスタinまえばしへ出展させていただいております。健康フェスタinまえばしは前橋市が主催して行われる健康づくりイベントで、県内の保健医療関係団体がブースを出展、公開講座や食育講演、G-ファイブショーなどもあり、体や健康、栄養などを楽しく学び、体験できるイベントです。今回も作業療法の啓発活動の一環として参加いたしました。出展内容は前年度と同じく『作業を通して、体と頭を健康に！ 作業体験コーナー』というテーマでプラバンキーホルダーを作りながら、作業の楽しさや効能について体験して頂きつつ、お伝えできたというものでした。前年度は協力して頂いたスタッフの方の少なさや予想以上のお客様にお越しいただいたこともあり、作業療法士に関する詳細な説明を実施する事が出来なかったり、材料が不足して時間一杯広報することが出来ておりませんでした。また、一日がかりのイベントである為参加していただいたスタッフの方の負担が大きかったように感じました。これらの反省点踏まえ今回はスタッフ数の増員や材料を多く用意し実施いたしました。スタッフの増員に関しては広報部だけでなく他部署の方々にも協力をお願いさせて頂き、結果として、スタッフの増員を図ることが出来、また沢山の方に県士会ブースに立ち寄り頂きました。繁忙な時でもお子様とキーホルダー作成をしつつも保護者の方に作業療法士について説明することが出来るなど、昨年の反省を踏まえて今回は臨む事ができました。また、休憩も一人一人とることが出来スタッフの方への負担も分散できたと思います。材料に関して時間内に材料不足となることなくイベント時間最後まで作成する事ができました。

全体を通して今回3回目の出展であり、前回よりも比較的余裕をもって実施できていたと考えられます。また、目的である広報活動も作業の楽しさを体験して頂きつつ行っていたと思います。反省点としては、一日がかりのイベントである為スタッフ一人一人の負担はまだ大きく、更なる人員の確保も必要であると考えられました。当日お手伝い頂いたスタッフの皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

簡単ではありますが以上で報告とさせていただきます。



プラ板に図柄はアニメキャラを中心に。  
不動の人気、ピ○チュウとぐんまちゃん。



G-FIVEも作成!

## 前橋赤十字病院

### 【病院の概要】

当院は大正2年に開院し、100年を超える歴史ある病院であり、今年6月に前橋南インター近くに新たに病院を建設して引っ越しを行いました。新病院は敷地内に地上ヘリポートと広い駐車場、院内保育園があり、周りは田畑に囲まれて眺望の良い景色がみられます。当院のコンセプトは「みんなにとってやさしい、頼りになる病院」です。3次救急（重篤な疾患や多発外傷に対する医療）を要として高度救命救急センターがあり、ドクターヘリやドクターカーも運用されています。また、基幹災害拠点病院にも指定され、県内や近県で起きた災害時に、傷病者の受け入れや医療救護班の派遣を行っています。さらに、地域がん診療連携拠点病院の指定を受けており、県内初のサイバーナイフが導入され、今年度9月から運用を開始しました。



さらに、回復期リハビリテーション病棟や精神科病棟も併設し、病床数は555床（一般病床527床、第2種感染症病棟6床、精神科病棟22床）となりました。

### 【リハビリテーション部門】

リハビリテーション科医師2人、理学療法士25人、作業療法士16人、言語聴覚士10人、マッサージ師1人  
脳血管リハビリテーション（I）、運動器リハビリテーション（I）、廃用症候群リハビリテーション（I）、心臓血管リハビリテーション（I）、呼吸器リハビリテーション（I）、がんリハビリテーションを算定

### 【作業療法部門の紹介】

急性期一般病棟と6月に新たに回復期リハビリテーション病棟が稼働し、医師の判断により、それぞれの療法士が個々に合わせたリハビリテーションプログラムを提供しています。急性期病棟では、医師の判断により、集中治療での超急性期のリハビリテーションからかんわ医療も介入しています。また、土曜日や日曜日もありリハビリテーションを提供できる体制になっており、早期の機能回復や日常生活動作の自立に努めています。さらに、入院だけでなく、上肢骨折などの整形疾患のリハビリテーションや自動車運転再開に関する評価を外来にて行っています。

回復期リハビリテーション病棟では、4人の作業療法士（専従2人、専任2人）が働いています。新しくできたリハビリ庭園での園芸やADLスペースでの生活指導、家屋調査など様々な視点から退院後の生活を見据えたアプローチを行っています。

日々忙しい中でも、他スタッフと情報交換を行い、チーム一丸となって、患者様に寄りそう医療を提供するため、頑張っています。



# 大学院社会人学生募集中



当研究室は、運動生理学手法を用いた上肢機能解析を中心に、身体障害作業療法分野全般の研究を行っています。ベテランから新人まで多くのOTが仕事と研究を両立、修士・博士課程に在籍しています。身障分野の臨床研究に関心のある方は、ぜひ大学院で自分の可能性に挑戦してみたい方は、ぜひ大学院で自分の可能性に挑戦してみたい方は、ぜひ大学院で自分の可能性に挑戦してみたい方は、ぜひ

毎週木曜日の勉強会は一般公開していますので、ご興味のある方はご見学下さい。

群馬大学大学院 保健学研究科  
教授 李範爽  
leebumsuk@gunma-u.ac.jp

# 仕事以外の時間も大切に 過ごしたい方

私たちと一緒に働きますか？

PT-OT募集 ①訪問看護ステーション所属のリハビリ業務 ②デイサービス所属のリハビリ業務

決められた時間内に効率よく働き、家族と過ごす時間や自分のための時間を大切にしたい人が働きやすい環境が整っています！

### 勤務地

- 前橋・高崎・浜川・伊勢崎エリア または 桐生・みどり・太田・足利・大泉エリア
- 桐生市 または 前橋市

### 勤務形態／勤務時間

- 正社員 / 8:30 ~ 17:30 ※8:00~18:00の帯で調整可
- 準社員 / 8:30 ~ 17:30のうち4.5時間以上  
小学校卒業までの子を持つ親または同居家族の介護を行っている場合
- パート / 8:30 ~ 17:30のうち3時間以上

### 給与

基本給十資格手当十実績手当  
**260,000円**～  
(準社員・パートは勤務時間により変動)  
経験考慮いたします

### 待遇・福利厚生

- 各種保険加入 (健康保険、労災保険、雇用保険、厚生年金保険)
- 退職金制度あり
- 賞与年3回 (昨年度実績)
- 保育士常駐の施設内託児室
- 訪問所属は進行治療制度あり
- フィットネス割引
- 旅行手当 など

### 休日・休暇

- 年間120日以上
- 土・日・祝日 (12/23, 成人の日を除く)
- 夏季休暇、年末年始
- 特別検診等休暇、参観休暇、介護実しんで休暇  
パパ産休など独自の特別有給休暇
- 年次有給休暇取得率 **75%** (平成27年度実績)

### 研修・キャリアアップ支援制度

- 入社後半年間のプリセプター制度
- ビジネスマナー研修、メンタルヘルス勉強会、社長勉強会など勤務時間内の様々な勉強会
- 症例発表、職種別勉強会など専門分野の研修
- 外部研修参加費、交通費、宿泊費の補助 (回数制限なし)
- 資格手当上乗せ: 対象資格は2017年度現在80種類以上
- 試験対策勉強会など、新たな資格取得をサポート  
クアマテ、介護福祉士、社会福祉士など毎年合格率が安定しています!

### ココロの特徴

- ★「お互い様」の風土が根付き、急病など突然のお休みへのフォロー体制が整っています。
- ★決められた時間内で効率よく働くことを重視。  
1.2月あたりの平均残業時間は1時間未満です。
- ★有休を積極的に取得し、たくさん遊びに行くことを推奨しています。



研修や子育て支援が充実しているため、フランクのある方少経験年数の短い方も安心して働けます!! 1人ずつにプリセプターがついて、訪問では始めのうちは先輩スタッフが同行するものも、初めて訪問業務を行う方も安心ください。

### お問い合わせ先

**Coco-Lo** ☎0277-55-5422 担当:しかり  
受付時間/8:30~17:30(土・日・祝休)  
群馬県桐生市相生町2丁目261-3 働き方改革への先進的な取り組みで国や県からの受賞実績多数。ぜひ一度弊社ホームページをご覧ください!  
http://coco-lo.net/



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

「平成最後」という1年が始まったかと思えばあっという間に新たな年を迎え、過ぎていく日々の早さを実感しています。昨年は30年度のダブル改定等もあり、プライベートに留まらず医療・介護領域に従事する者としての変化もあった1年だったのではないかと思います。

会員の皆さまにとって昨年はどんな1年だったでしょうか？また今年はどうな1年にしたいと考えていますでしょうか？新たな年の初め、目標を立てるといことは大事かと思えます。・・・「OTとしての今年の目標はなんですか?」なんていう記事を執筆して頂くのもニュースとしては面白いかもしれません。

個人的な県士会活動の話になってしまいますが、昨年はニュース編集としてあまり発展させることもできず、どうしたら良いのか悩んだ一年でした。今年はずっと手に取ってもらえる、会員の皆さんの役に立つニュース作りができるよう取り組んでいきたいと思っていますので、皆さまのご協力を今年もよろしくお願い致します。

S

## 投稿大募集!!

ニュースでは、日頃感じている些細な疑問や日常業務で工夫している点、こんな研修会に参加した・・・などなど、皆様からの投稿を募集しております。

どんなことでも構いませんので、お気軽にお寄せ下さい。お待ちしております!!

アドレス: dc\_nanohana@yahoo.co.jp  
広報部・ニュース編集グループ  
反町拓海

県士会ホームページアドレス

<http://www.gunma-ot.org/>

## 群馬県作業療法士会ニュース

発行者 || 新井 健五

発行所 || 群馬県作業療法士会事務局 〒371-0024 前橋市紅雲町1丁目7番12号 TEL・FAX 027-224-4649

編集代表 || 反町 拓海 編集委員 || 中村 真美、関 仁紀、下田 幸、吉澤 一郎 印刷 || 星野印刷株式会社